幼児の絵画知覚と言語表現

品村　幸子*　井戸　裕子*　一ノ瀬和子*　堀内　康人**

About the Perception of Picture and the Verbal Expression of Infant

Sachiko Shinamura, Yūko Ido, Kazuko Ichinose, Yasuto Horiuchi

〔内容抄録〕 幼児の生活の中で身近かな親しみのある題材の絵を見せ，その絵について話をさせ，それをテープにおさめ，そのテープの再生記録をもとに行った研究である。実験者の被験児に対する言葉かけのいかんによって幼児の言語表現には根本的な変化が現われる。従ってどうすれば一定条件下で，幼児の言語表現を客観的につかまえることが出来るかに留意しながらデータを得た。

幼児の絵画知覚と言語表現は時間的，空間的に複雑な関連をもちながら展開する。また幼児の言語表現は断片的にとどまったり，反対に彼等の生活経験とつながりをもちながら，個性的に展開されたりする。描かれた題材に知覚が固着したり，それから全く離れてしまったり，題材と関連した子どもの表象像と結びついてひろがりをもってきたりする。その様子をさまざまな角度から検討し幼児の年令別な傾向や絵画の側面からの特徴等について考察した。

Ⅰ　研究の目的

幼児の生活には絵に接する機会が沢山ある。彼等は絵を見てどのように感じ，どんなことを考えるのだろう。こうした疑問は極めて日常的な疑問である。

子どもが絵を見てこんなことをいったなどというエピソード的な興味もさることながら，絵画知覚をアイ・カメラで分析する研究なども見られるが，本研究では極めて素朴に絵を見せて話をさせ，それをテープにとり時間を測定しながら分析する方法によりデーターをとり，その分析方法も含めて幼児の絵画知覚と言語表現からでてくる諸問題を分析考察する。

Ⅱ　研究の方法

1.　実験対象

5才児6名（内男3名女3名），4才児8名（内男5名女3名），3才児8名（内男4名女4名），2才児2名（内男1名女1名）計24名

2.　実験場所

川越　企業保育所　実験室

3.　実験・データー整理期間

予備実験　1975年6月～7月

本実験　　1975年7月～11月

データー整理　1976年4月～12月

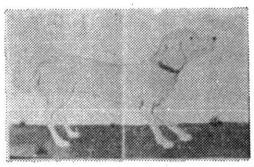
4.　予備実験（絵①②）ならびに本実験（絵③④⑤⑥⑦⑧）に使用した絵

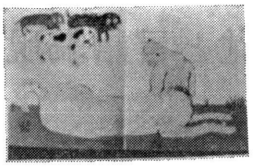
（なかたに　ちよこ作，ぼくのうちのどうぶつえん，福音館書店，1970年7月，p. 4～p. 19）

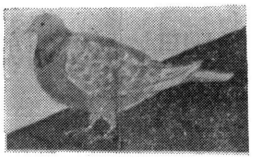
5.　実験手続

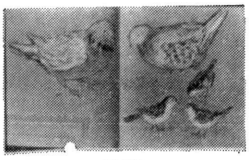
A　・実験者1名，記録者1名，被験児を1名ずつ実験室に招き入れ，絵を提示し，話をさせる。それをテープにおさめる。その状況を

*保育内容研究室　**保育学研究室


絵①

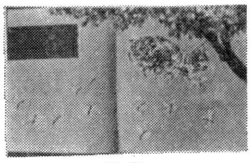

絵②

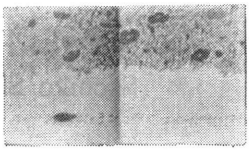

絵③


絵④

絵⑤

絵⑥


絵⑦


絵⑧

記録し，あわせて時間測定（ストップウォッチ使用）を行う。

B　実験者の被験児に対することばかけの条件

【1】 基本的態度

絵に対し，子どもがなるべくありのままの素朴な形で話させるため，実験者のことばかけは「この絵のお話をしてちょうだい」，「それから」等少数に限定する。

【2】 状況説明

(1)　始めのことばかけ

「この絵のお話をしてちょうだい」

(2)　二度目のことばかけ

「この絵のお話をしてちょうだい」あるいは「お話あるでしょう」

a　「この絵のお話をしてちょうだい」といっても意味が理解できない場合にいう。

b　絵をひととうり見て，落着いた状態になりきっかけがつかめないで話せないでいる場合にいう。

(3)　実験者はだまって見ている。

絵に対して子どもが興味をもち，子どもの視線が上下左右あちこちと動いている場合，子どもの気持をさまたげないようにする。

(4)　実験者はうなずく

子どもが話をして一息ついた時，肯定の意味でうなずく，また子どもが「それでね」「こうしてね」と次々に言葉を続けていく場合もうなずく。

(5)　実験者は「そう」「そうね」とあいづちをうつ。

子どもが「そうしたの」，「いったの」と区切りをつけるような場合にいう。

(6)　実験者の「それから」のことばかけ

a　絵をひととうり見て，落着いた状態になり，なおことばを発しない場合にいう。

b　話そうとしているがことばが出ない状態の場合にいう。

c　話し方が断片的な場合にいう。

(7)　実験者の「これは何」「何でしょう」「これは何してるの」のことばかけ

2度「この絵のお話をしてちょうだい」のことばかけをしても話さない場合，絵の一部をさして聞く。

(8)　実験者の返答

描かれている絵の描き方に関心がいき，名称とその色がはっきりしないために話が進まず，子どもが質問した場合，実験者はことば少なく答える。

(9)　実験者はどんな時に子どものお話が終了したと判断するか。

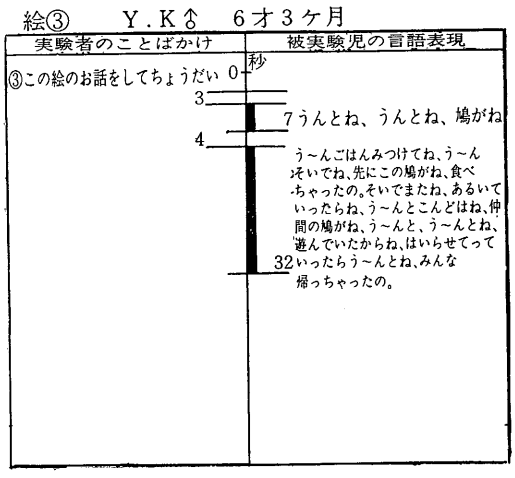
a　次の頁をめくろうとする場合

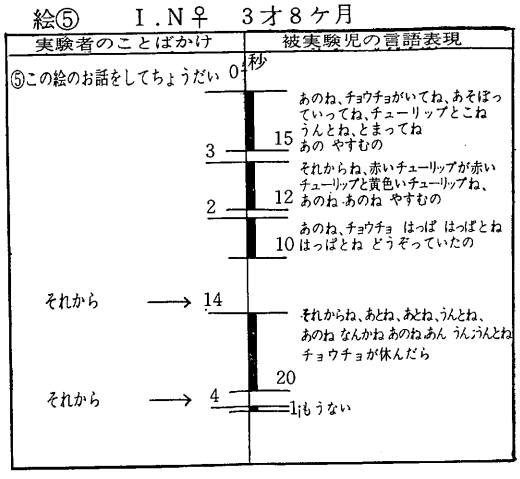
b　視点が絵本にない場合

c　あくびなどをしたり，他の話などをしはじめた場合。

Ⅲ　実験結果および考察

1.　テープ再生記録の一例





2.　子どもが「話している時間」「話さない時間」

結果の考察に当っては，被験児が各年令別において少数であるため，個人的特徴が目立ちそれに左右されがちではあるが，全体としての傾向を知ることができるであろう。

表Ⅰ(イ)　子どもが「話している時間」「話さない時間」

註　● 話している時間（単位は秒）
　　○ 話さない時間（　〃　）
　　※ 言語表現無

年令	氏名 ＼ 絵	③ ●	③ ○	③ 合計	④ ●	④ ○	④ 合計	⑤ ●	⑤ ○	⑤ 合計	⑥ ●	⑥ ○	⑥ 合計	⑦ ●	⑦ ○	⑦ 合計	⑧ ●	⑧ ○	⑧ 合計	③～⑧の平均 ●	③～⑧の平均 ○	③～⑧の平均 合計
5歳児	Y.K♂	39	7	46	35	4	39	37	7	44	19	4	23	47	64	111	36	12	48	35.5	16.3	51.8
	W.K♂	31	0	31	101	0	101	100	17	117	66	8	74	59	3	62	37	0	37	65.7	4.7	70.3
	T.A♀	※	※	※	※	※	※	15	4	19	11	11	22	7	3	10	13	4	17	11.5	5.5	17.0
	K.Y♀	2	49	51	4	2	6	4	40	44	7	22	29	8	37	45	9	39	48	5.7	31.5	37.2
	N.M♀	※	※	※	※	※	※	7	27	34	15	9	24	5	20	25	7	31	38	8.5	21.8	30.3
	T.T♂	41	9	50	47	0	47	55	10	65	29	7	36	142	121	263	74	39	113	64.7	31.0	95.7
4歳児	I.R♂	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	18	57	75	11	15	26	14.5	36.0	50.5
	M.N♂	8	8	16	8	6	14	10	2	12	14	2	16	25	7	32	17	4	21	13.7	4.8	18.5
	T.T♂	17	65	82	22	13	35	18	15	33	35	23	58	22	30	52	16	10	26	21.7	26.0	47.7
	K.K♀	91	19	110	68	5	73	11	6	17	45	14	59	33	6	39	19	1	20	44.5	8.5	53.0
	K.M♀	21	31	52	19	8	27	15	13	28	14	2	16	12	11	23	8	6	14	14.8	11.8	26.7
	A.K♂	1	15	16	10	83	93	3	53	56	8	30	38	10	40	50	4	33	37	6.0	42.3	48.3
	E.M♂	37	27	64	24	49	73	15	53	68	45	80	125	57	34	91	41	26	67	36.5	44.8	81.3
	A.R♀	2	4	6	4	16	20	14	29	43	13	13	26	5	4	9	5	6	11	7.2	12.0	19.2
3歳児	I.K♂	※	※	※	※	※	※	37	22	59	21	7	28	168	23	191	60	10	70	61.5	15.5	87.0
	I.K♀	26	28	54	50	31	81	138	43	181	68	20	88	7	55	62	79	34	113	61.3	35.2	96.5
	G.K♀	※	※	※	※	※	※	2	8	10	1	12	13	3	45	48	1	24	25	1.8	22.3	24.0
	I.M♂	6	37	43	73	20	93	60	9	69	45	6	51	40	4	44	47	5	52	45.2	13.5	58.7
	Y.N♂	66	39	105	26	10	36	146	29	175	120	21	141	106	33	139	35	11	46	83.2	23.8	107.0
	I.N♀	177	45	222	25	16	41	58	23	81	71	19	90	21	23	44	21	9	30	62.2	22.5	84.7
	M.K♂	4	26	30	8	53	61	6	20	26	13	14	27	63	92	155	22	6	28	19.3	35.2	54.5
	N.K♀	※	※	※	2	15	17	6	31	37	89	71	160	9	23	32	12	20	32	23.6	32.0	55.6
2歳児	M.M♀	13	36	49	10	7	17	14	4	18	5	0	5	1	2	3	35	19	54	13.0	11.3	24.3
	S.T♂	4	14	18	2	9	11	7	21	28	5	20	25	15	14	29	15	37	52	8.0	19.2	27.2
年令別平均	5歳児	28.3	16.3	44.5	46.8	1.5	48.3	36.3	17.5	53.8	24.5	10.2	34.7	44.7	41.3	86.0	29.3	20.8	50.2	34.6	19.1	53.7
	4歳児	25.3	24.1	49.4	22.1	25.7	47.9	12.3	24.4	36.7	24.9	23.4	28.3	22.8	23.6	46.4	15.1	12.6	27.8	20.3	22.2	42.5
	3歳児	55.8	35.0	90.8	30.7	24.2	54.8	56.6	23.1	79.8	53.5	21.3	74.8	52.1	37.3	89.4	34.6	14.9	49.5	47.4	25.4	72.8
	2歳児	8.5	25.0	33.5	6.0	8.0	14.0	10.5	12.5	23.0	5.0	10.0	15.0	8.0	8.0	16.0	25.0	28.0	53.0	10.5	15.3	25.8
	全年令	32.6	22.7	58.1	28.3	18.3	46.6	33.8	21.3	55.0	33.0	18.0	51.0	36.8	31.3	68.1	26.0	16.7	42.7	31.6	21.8	53.6

表Ⅰ(ロ)　年令別比率

	●話している時間		○話さない時間		合　計	
	秒	%	秒	%	秒	%
5歳児	34.6"	64.4 %	19.1"	35.6%	53.7"	100%
4歳児	20.3"	47.8	22.2"	52.2	42.5"	100%
3歳児	47.4"	65.1	25.4"	34.9	72.8"	100%
2歳児	10.5"	40.7	15.3"	59.3	25.8"	100%
全年令	31.8"	59.3	21.8"	40.7	53.6"	100%

表Ⅱ　言語表現における「うんとね」等の回数

年令	氏名＼絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	③～⑧平均
5歳児	Y.K.♂	8	3	8	4	9	5	6.2
	W.K.♂	4	11	18	10	19	7	11.5
	T.A.♀	※	※	3	2	2	2	2.3
	K.Y.♀	0	0	0	0	1	0	0.2
	N.M.♀	※	※	0	0	0	0	0
	T.T.♂	1	3	3	0	5	2	3.8
4歳児	I.R.♂	※	※	※	※	0	0	0
	M.N.♂	1	1	1	2	8	1	2.3
	T.T.♂	0	2	2	4	5	2	2.5
	K.K.♀	5	1	1	4	4	1	2.7
	K.M.♀	1	1	2	0	1	0	0.8
	A.K.♂	0	0	0	0	1	0	0.2
	E.M.♂	0	0	1	0	2	7	1.7
	A.R.♀	0	0	1	0	0	0	0.2
3歳児	I.K.♂	※	※	7	1	34	9	12.8
	I.K.♀	1	2	17	4	0	1	4.7
	G.K.♀	※	※	0	0	0	0	0
	I.M.♂	0	14	3	3	1	7	4.7
	Y.N.♂	12	3	29	23	16	7	15.0
	I.N.♀	6	2	11	7	5	2	5.5
	M.K.♂	0	0	0	1	2	0	0.5
	N.K.♀	※	0	2	12	1	0	2.5
2歳児	M.M.♀	5	0	0	1	0	0	1.0
	S.T.♂	0	0	0	0	0	0	0
年齢別平均	5歳児	3.3	4.3	5.3	2.7	6.0	2.7	4.1
	4歳児	1.0	0.7	1.1	1.3	2.6	1.4	1.4
	3歳児	3.8	3.5	8.6	6.4	7.4	3.3	5.7
	2歳児	2.5	0	0	0.5	0	0	0.5
	全年齢	2.4	2.3	4.7	3.4	4.8	2.2	3.3

A　「話す時間」と「無言の時間」の考察

〔1〕　年令別に話す時間と無言の時間の比率について表Ⅰ（ロ）から次のことがいえる。

5才児と3才児の話す時間と無言の時間の比率は双方とも大体65%：35%となり，話す時間が長く，4才児と2才児の比率は双方とも大体44%：56%となり，無言の時間が長くなっている。ただし絵④（鳩と雀）の5才児だけが話す時間と無言の時間の比率は96.9%：3.1%となりきわだったちがいを示している。

〔2〕　絵③～⑧について表Ⅰ(イ)から次のことがいえる。

絵④をのぞいて，すべての絵について3才児の話す時間が最も長い。絵④は5才児の話す時間が最も長い。以上のことから3才児はおしゃべりの時期，4才児は5才児と3才児との中間にあり，言語表現にとまどう過渡的な時期であることを示している。

B　言語表現における「うんとね」等の考察

・言語表現をつなげるために子どもが発する「うんとね」等の数もまた表現内容とあわせて重要な役割を演じている。

表Ⅱから次のことがいえる。

絵③～⑧までの「うんとね」の平均回数は5才児3.8回，4才児1.3回，3才児5.7回，2才児0.5回となり3才児が最も多く，これらの接続的な言語を頻発しておしゃべりをつづける傾向が顕著に見られる。しかし個人的に見れば5才児の中にも平均11.5回の子どももいる。

3. 子どもの言語表現内容

A 絵③についての具体例

5 歳 児	
Y.K.♂	●鳩がごはんみつけてそいで先にこの鳩が食べちゃった ●また歩いていったら、今度は仲間の鳩が遊んでいたら ●はいらせてっていったらみんな帰っちゃった
W.K.♂	●鳥がここだと子供が来ると思ってまってて ●それでずうっとまったんだけど全々来ない ●それでしょうがないから帰ろうとしたけど、やっぱりここでまつことにした
K.Y.♀	●鳩●むこう見てる
T.T.♂	●鳩が立ってる ●鳩が立って歩いている ●しっぽをふっているみたいだなあ ●羽がある●こういう緑の口ばし ●口で何かさすみたい ●きつつきみたい●こんななってる、金魚の形みたい ●目がある
4 歳 児	
M.N.♂	●鳩が立ってる●ないてる
T.T.♂	●これ鳥みたい●家に帰る ●家に帰ったらおやつ食べた●おひる ●あとお家に帰ってねた
K.K.♀	●休みの時、多摩動物園にいったら、ハトポッポがいて、パパがあげたの、えさ ●ハトポッポおいすにすわって飛んじゃった ●羽おっこちゃった ●ごはんいっぱい食べられなくて、お家にいっちゃった ●ハトポッポ、赤ちゃん産れて、それで寝ちゃったすぐに ●この足けがしてほうたい巻いてくれた ●ハトポッポいっちゃった ●かおりちゃん帰っちゃった ●えさがとんじゃって、ハトポッポ食べない ●お水飲みに行った
K.M.♀	●ハトポッポがえさを食べて ●羽がはえて●つめもはえて
A.K.♂	●とり
E.M.♂	●鳩●ハトポッポ羽もいっぱいはえているよ ●口も●お鼻も●お目々も●しっぽある●体 ●足だよ●首だよ●背中だろ●羽だろう
A.R.♀	●とりちゃん

3 歳 児	
I.K.♀	●とり●これが足●羽●お顔 ●しっぽ●これは何でしょう
I.M.♂	●とり●すずめにわとり●ちゅぱめ●わからない
Y.N.♂	●とりが山をみてる ●そうしたら、とりが飛ばないで、歩いて帰る ●山はみえなくなっちゃったから、夜になったから、山はみえなくなっちゃった
I.N.♀	●とりが遊んで ●いくとお友達がいた ●遊ぼうっていって別の鳥さんがあそんだ ●さがしにいって飛んでいったら、お友達が遊びに来たでしょう ●お山にいってきたら、せみがいたでしょう ●そうしてお花畑にでかけにいって、さようならしたら、できないほうで ●帰ったら、また遊んだ ●できないほうは、道路をかけ足したら、自動車が来て死んだけど鳩さんがあっちの方へいったり、こっちの方へいったりすると残念なの ●鳩が、夕焼のあと、夜になったでしょう、そうして、小鳥さん、ちがう小鳥さんと会った ●遊ぼうっていったら森の中へいった ●そうして、ないけど、でもお母さん小鳥が「いけません」ていったでしょう ●そうしたら「いってもいいお父さん」っていったらいってもいいっていったの、そうしたらね「ちょっとだけ帰って来なさいよー」っていったの ●小鳥のお姉さんが言って夕焼になったらこわかった ●そうして夜になったわけ、おばけが出て来た ●それからハトがにげた「おあかさん、ゆうれいが来た」っていった ●今度あっちの方へ、こっちの方へいったらじっとお母さんお家ついてもうやめたらやめた ●そうして勉強したり、遊びしたりお外いったりする。
M.K.♂	●ことり●お家の中に入ってる
2 歳 児	
M.M.♀	●ことりさん ●ことりさんこうやって食べる ●しっぽ
S.T.♂	●ことり

注：紙面の都合で絵③の言語表現内容のみ記載する。

B　言語表現内容と絵とのかかわりあいにおける分類の視点

分類	描かれた題材の言語表現			描かれない題材の言語表現		
	A　断片的・説明的		B　想　像　的		C　生活的・経験的	
	A_1	A_2	B_1	B_2	C_1	C_2
視　点	描かれた題材の名称・数・量・形・色彩などに関する断片的言語表現	描かれた題材そのもののあり方に関する言語表現	描かれた題材そのものの想像的言語表現	描かれた題材との関連をもち描かれない描写へと発展した言語表現	描かれた題材からとび出し日常生活をもとにしたことばの一人歩き的言語表現	過去の生活経験をもとにした言語表現
具体例	●ハト ●目がある ●羽がある	●ハトが立っている	●ハトが立って歩いている ●しっぽをふってるみたいだな～	●鳥がここだと子どもが来ると思ってまってて ●それでずうっとまったんだけど全々こない ●それでしょうがないから帰ろうとしたけどやっぱりここでまつことにした	●ハトが家に帰ったらおやつ食べた ●あとねお家に帰ってねたの	●休みの時多摩動物園に行ってパパがえさあげた

註　イ．言語表現内容に関しては、たとえば「ハトが立っている」と助詞が入る場合は分類B_1とする
　　ロ．「ハト」といい、しばらく無言、再び「立っている」といった場合は分類A_1、B_1とする

C　同上視点における内容分析

表Ⅲ　言語表現内容の展開

※　言語表現無

年齢	氏名＼絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
5歳児	Y.K.♂	B_2	$A_2B_1B_2$	$B_1B_2A_2B_1B_2$	B_1B_2	$B_1B_2B_1$	A_2B_2
	W.K.♂	B_2	$A_2B_1B_2$	$B_1B_2B_1B_2$	B_1B_2	B_1	B_1
	T.A.♀	※	※	B_1	B_1	B_1	B_1
	K.Y.♀	A_1B_1	A_2	A_1A_2	A_2	B_1	B_1
	N.M.♀	※	※	A_2B_1	A_2	B_1	$B_1A_2B_1$
	T.T.♂	$A_2B_1A_1B_1C_2A_1$	$A_1A_2A_1B_1$	$A_2A_1B_1A_1$	$A_2A_1A_2B_1$	$B_1A_1B_1A_1B_1C_2A_1C_2A_1C_2A_1C_2B_1$	$A_2B_1A_1C_2B_1A_1B_1C_2A_1$
4歳児	I.R.♂	※	※	※	※	$A_1B_1A_1B_1C_2$	A_1B_1
	M.N.♂	A_2B_1	A_2	A_2B_1	B_2B_1	B_1	B_1B_2
	T.T.♂	$A_1B_1C_1$	A_2B_1	B_1C_1	$B_1B_2B_1$	$B_1A_1B_1$	$A_2B_1B_2$
	K.K.♀	$C_2C_1B_1B_2$	$A_2B_1B_2C_2$	B_1	$C_2B_1B_2$	C_2B_1	C_2
	K.M.♀	B_2A_1	B_1	B_1	B_1	B_1	B_1B_2
	A.K.♂	A_1	$A_1A_2A_1A_2$	A_1A_2	A_1A_2	$A_2A_1A_2B_1$	A_2A_1
	E.M.♂	A_1	A_2A_1	A_1	$A_1C_2A_1$	$A_1A_2A_1C_2$	$A_1B_1A_1B_1C_2$
	A.R.♀	A_1	A_1	B_1	B_1	B_1	B_1A_2
3歳児	I.K.♂	※	※	A_2B_1	$B_1B_2B_1$	C_2B_2	$A_1B_1B_2B_1C_2$
	I.K.♀	A_1	$A_1C_2B_1A_1$	$C_2A_1C_2A_1B_1A_1C_2$	$A_1C_2A_2C_2A_1B_1A_1A_2B_1C_2B_1C_2A_1$	A_1C_2	$B_1A_2C_2$
	G.K.♀	※	※	A_1	A_1	A_1	A_1
	I.M.♂	A_1C_2	A_1B_1	$A_1B_1A_1$	$A_1B_1C_2B_1C_2$	$A_1B_1A_2B_1$	B_1
	Y.N.♂	B_1B_2	$B_1A_2B_1B_2$	$B_1B_2B_1B_2C_1$	$A_2B_1B_2A_2B_1B_2A_2B_1$	B_1B_2	B_1B_2
	I.N.♀	$B_1B_2C_1$	B_1A_2	B_1	$A_2B_1A_2$	B_1	A_2B_1
	M.K.♂	A_1B_1	A_1	B_1A_2	A_2B_1	$C_2A_2B_1A_2B_1B_2$	A_2B_1
	N.K.♀	※	A_1	A_2	$A_1A_2B_1$	$A_1B_1A_2$	B_1
2歳児	M.M.♀	$A_1C_2A_1$	A_1	A_2B_1	A_1A_2	C_2	A_1
	S.T.♂	A_1	A_1	A_1	A_1A_2	A_1	A_1
全年齢	展開数計	38	42	53	68	64	55
	平　均	2.1	2.2	2.3	3.0	2.7	2.3

〔1〕 言語表現内容の展開についての考察

(1) 言語表現内容の展開について表Ⅲからいえることは，それぞれの絵についての展開数の平均は絵③—2.1，絵④—2.2，絵⑤—2.3，絵⑥—3.1，絵⑦—2.7，絵⑧—2.3となり，絵⑥において最も多い展開を示している。

〔2〕 言語表現がどんな言葉から始められるかについての考察

表Ⅳ　言語表現がどんなことばから始められるか

(%)

年齢	分類＼絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	③～⑧合計
5歳児	A_1	25.0	25.0	16.7	0	0	0	9.4
	A_2	25.0	75.0	33.3	50.0	0	33.3	34.4
	B_1	0	0	50.0	50.0	100.0	66.7	50.0
	B_2	50.0	0	0	0	0	0	6.2
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	0	0	0	0	0	0	0
4歳児	A_1	57.0	28.7	28.7	28.7	25.0	25.0	31.8
	A_2	14.3	57.0	14.3	14.3	12.5	25.0	22.8
	B_1	0	14.3	57.0	28.7	50.0	37.5	31.8
	B_2	14.3	0	0	14.3	0	0	4.5
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	14.3	0	0	14.3	12.5	12.5	9.1
3歳児	A_1	60.0	66.7	25.0	50.0	50.0	25.0	44.2
	A_2	0	0	25.0	37.5	0	25.0	16.3
	B_1	40.0	33.3	37.5	12.5	25.0	50.0	32.5
	B_2	0	0	0	0	0	0	0
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	0	0	12.5	0	25.0	0	7.0
2歳児	A_1	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	83.4
	A_2	0	0	50.0	0	0	0	8.3
	B_1	0	0	0	0	0	0	0
	B_2	0	0	0	0	0	0	0
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	0	0	0	0	50.0	0	8.3
全年齢	A_1	55.5	47.4	26.1	34.8	29.2	25.0	35.1
	A_2	11.1	36.8	26.1	30.5	4.1	25.0	22.1
	B_1	11.1	15.8	43.5	26.1	50.0	45.8	32.6
	B_2	16.7	0	0	4.3	0	0	3.1
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	5.6	0	4.3	4.3	16.7	4.2	6.1

(1) 言語表現がどんな言葉から始められるかということは，そのことだけでも大いに研究に価することである。

実験者が被験児に絵を見せながら「この絵のお話をしてちょうだい」と言葉かけをすると，2才児83.4%，3才児44.2%，4才児31.8%の子どもが，描かれた題材の名称などから話を始めている。ところが5才児はそれが9.4%と減少し，むしろわかりきった題材の名称から進んで題材の状態を動的につかみ，想像的言語表現をする子どもが50%になっている。

(2) 被験児が絵を見てその話をする場合，自分の生活経験から話をはじめるのが2才児 8.3%，3才児7%，4才児9.1%となるが，5才児になると0%となっている。

(3) 描かれない題材に関する言語表現は，2才児・3才児は0%であるのに，4才児・5才児になると4.5%，6.2%とひろがりを見せている。

(4) 絵についていうならば絵③④⑥⑧については題材の名称などから言語表現が始められる割合が多いが，絵⑤，⑦については，想像的言語表現から始められるものが半数を占めている。

(5) 単純な絵③では，絵④～⑧のように題材が多く，題材間の相互関係のある絵に比べ，平均55.5%の子どもが題材の名称などから言語表現をはじめている。それを年令別にみると，5才児25%，4才児57%，3才児60%，2才児100%となっている。

〔3〕 言語表現の内容についての考察

表V(イ) 言語表現内容数

註 ※言語表現無
空欄は0

年令	氏名	③ A1	③ A2	③ B1	③ B2	③ C1	③ C2	④ A1	④ A2	④ B1	④ B2	④ C1	④ C2	⑤ A1	⑤ A2	⑤ B1	⑤ B2	⑤ C1	⑤ C2	⑥ A1	⑥ A2	⑥ B1	⑥ B2	⑥ C1	⑥ C2	⑦ A1	⑦ A2	⑦ B1	⑦ B2	⑦ C1	⑦ C2	⑧ A1	⑧ A2	⑧ B1	⑧ B2	⑧ C1	⑧ C2	③～⑧の合計 A1	A2	B1	B2	C1	C2	A1～C2合計 (内平均)
5歳児	Y.K.♂				3				1	1	1				1	2	2					2	1					4	2				1		2				3	9	11			23 (3.8)
	W.K.♂				3				1	6	4					2	4					3	4					3						3					1	17	15			33 (5.5)
	T.A.♀	※						※								2						1						1						1						5				5 (1.3)
	K.Y.♀	1		1					1					1	1						2							1						2				2	4	4				10 (1.7)
	N.M.♀	※						※							1	1					3							2					1	2					5	5				10 (2.5)
	T.T.♂	3	1	3			2	3	1	3				3	2	2				2	4	1				11		7			4	7	2	5			3	29	10	21			9	69 (11.5)
4歳児	I.R.♂	※						※						※						※						2		2			4	1		2				3		4			4	11 (5.5)
	M.N.♂		1	1					2						1	2						2	1					3						1	1				4	9	2			15 (2.5)
	T.T.♂	1		1		3			2	2						1		3				3	2			1		3					1	1	1			2	3	11	3	6		25 (4.2)
	K.K.♀			1	2	1	6		3	1	1		3			1						2	1		2			1			1						1		3	6	4	1	13	27 (4.5)
	K.M.♀	2			1					2						2	•					2						3						1	2			2		10	3			15 (2.5)
	A.K.♂	1						2	2					2	1					3	2						1	2	1			1	1					10	8	1				19 (3.2)
	E.M.♂	11						1	1					2						4					1	5	1				1	3		4			1	26	2	4			3	35 (5.8)
	A.R.♀	1						3								3						3						1					1	1				4	1	8				13 (2.2)
3歳児	I.K.♂	※						※							1	4						2	1						4		9	1		2	1		3	1	1	8	6		12	28 (7.0)
	I.K.♀	6						4		2			1	8		1			10	4	2	3			4	1					2		1	8			2	23	3	14			19	59 (9.8)
	G.K.♀	※						※						2						1						1						1						5						5 (1.3)
	I.M.♂	1					4	2		7				4		1				1		4			3	1	1	3						4				9	1	19			7	36 (6.0)
	Y.N.♂			2	1				2	2	1					7	5	1			4	5	7					1	11					5	4				6	22	29	1		58 (9.7)
	I.N.♀			1	15	1			1	1						4						6	1					2					1	1					8	10	15	1		34 (5.7)
	M.K.♂	1		1				3							1	1					1	1					6	2	1		1		1	3				4	9	8	1		1	23 (3.8)
	N.K.♀	※						1							1					1	1	5				1	1	1						4				3	3	10				16 (3.2)
2歳児	M.M.♀	2					1	2							1	1				1	1										1	3						8	2	1			2	13 (2.2)
	S.T.♂	1						2						3						3	1					2						5						16	1					17 (2.8)
全年齢		31	2	11	25	5	13	23	17	27	7		4	25	11	37	11	4	10	20	21	45	18		10	26	11	41	18		23	22	10	50	11		10	147	78	206	89	9	70	599 (4.6)
A1～C2内合計平均	5歳児	17 (4.3)						22 (5.5)						24 (4.0)						23 (3.8)						35 (5.8)						29 (4.8)				150 (4.7)						
	4歳児	33 (4.7)						25 (3.6)						18 (2.6)						28 (4.0)						32 (4.0)						24 (3.0)				160 (3.6)						
	3歳児	33 (6.6)						27 (4.5)						51 (6.4)						57 (7.1)						49 (6.1)						42 (5.3)				259 (6.0)						
	2歳児	4 (2.0)						4 (2.0)						5 (2.5)						6 (3.0)						3 (1.5)						8 (4.0)				30 (2.5)						
	全年齢	87 (4.8)						78 (4.1)						98 (4.3)						114 (5.0)						119 (5.0)						103 (4.3)				599 (4.6)						

表V(ロ)　言語表現内容数（分類の視点別比率）

(%)

年令	分類＼絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	③～⑧の合計
5歳児	A_1	23.5	13.6	16.7	8.7	31.4	24.1	20.7
	A_2	5.9	18.2	20.8	39.1	0	13.8	15.3
	B_1	23.5	45.5	37.5	30.4	51.5	44.8	40.7
	B_2	35.3	22.7	25.0	21.8	5.7	6.9	17.3
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	11.8	0	0	0	11.4	10.4	6.0
4歳児	A_1	48.5	24.0	22.2	25.0	28.1	20.8	29.4
	A_2	3.0	40.0	11.1	7.1	9.4	12.5	13.1
	B_1	9.1	20.0	50.0	42.9	43.8	41.6	33.1
	B_2	9.1	4.0	0	14.3	0	16.7	7.5
	C_1	12.1	0	16.7	0	0	0	4.4
	C_2	18.2	12.0	0	10.7	18.7	8.4	12.5
3歳児	A_1	24.3	37.0	27.5	12.3	8.2	4.8	17.4
	A_2	0	11.1	5.9	14.0	16.3	7.1	12.0
	B_1	12.1	44.5	35.3	45.6	18.4	64.3	35.1
	B_2	48.5	3.7	9.8	15.8	32.6	11.9	19.7
	C_1	3.0	0	1.9	0	0	0	0.8
	C_2	12.1	3.7	19.6	12.3	24.5	11.9	15.0
2歳児	A_1	75.0	100.0	60.0	66.7	75.0	100.0	80.0
	A_2	0	0	20.0	33.3	0	0	10.0
	B_1	0	0	20.0	0	0	0	3.3
	B_2	0	0	0	0	0	0	0
	C_1	0	0	0	0	0	0	0
	C_2	25.0	0	0	0	25.0	0	6.7
全年齢	A_1	35.6	29.5	25.5	17.5	21.9	21.4	24.5
	A_2	2.3	21.8	11.2	18.4	9.2	9.7	13.0
	B_1	12.7	34.6	37.8	39.5	34.5	48.5	34.4
	B_2	28.7	9.0	11.2	15.8	15.1	10.7	14.9
	C_1	5.8	0	4.1	0	0	0	1.5
	C_2	14.9	5.1	10.2	8.8	19.3	9.7	11.7

(1)　言語表現の内容の豊かさということになると大変むずかしい問題である。しかし単純に内容数の年令別比較をすると絵③～⑧までの平均内容数が5才児4.7，4才児3.6，3才児6.0，2才児2.5となり，3才児が最も多くなっている。

(2)　絵③～⑧のそれぞれについていうならば絵③4.8，絵④4.1，絵⑤4.3，絵⑥5.0，絵⑦5.0，絵⑧4.3となり平均言語表現内容数は，ほとんどかわりがない。

(3)　話す時間においてみられたように，言語表現内容数比較においても，3才児が絵④を除きすべての絵について，最も多い内容数を示している。ただし，絵④については5才児の内容数が最も多くなっている。

(4)　子どもの言語表現内容分類の視点からみるならば，表V㊁でわかるように，絵③を除きすべての絵で題材の想像的言語表現が大体35%～48%となっている。

〔4〕 絵の題材相互のかかわりあいの言語表現の考察

表Ⅵ(イ) 絵の題材相互のかかわりあいの言語表現

絵	相互関係の種類	(%)	相互関係の言語表現一例
③	鳩と描かれない題材	100	●鳩が山を見ている。 ●友達を待っている鳩
④	鳩と雀	50.0	●鳥の親子 ●鳩が雀に話した。
	鳩と餌	42.9	●鳩（親）が餌を食べている。
	雀と餌	50.0	●雀（赤ちゃん）が餌を食べている。
	鳩・雀と餌	35.7	●鳩と雀（親子）が餌を食べている。
	鳩	35.7	●鳩（お父さんとお母さん）がお話している。
	雀	21.4	●雀（ちっちゃい鳥）はお話している。
	鳩・雀と描かれない題材	7.1	●人が来たから飛んでいった。
⑤	蝶とチューリップ	93.8	●蝶がチューリップにとまる・みつすいに来た。
	蝶	25.0	●蝶が一緒に遊ぶ。
	チューリップ	12.5	●赤いチューリップと赤いチューリップがお話している。
	蝶と描かれない題材	31.3	●白いチューリップにとまる・雨が降って来て蝶が帰る。
	チューリップと描かれない題材	18.8	●雨が降ってチューリップにお水あげた。
⑥	蛙と蝸	45.0	●蛙が蝸に遊ぼうって言った。
	蛙とあじさい	50.0	●蛙が花を見に来た、はっぱにのる。
	蝸とあじさい	85.0	●蝸がはっぱにのっている。
	蛙蝸とあじさい	5.0	●蛙と蝸が一緒にのる。
	蛙	15.0	●親子 ●兄弟
	蛙と描かれない題材	25.0	●雨が降って蛙が喜んで遊ぶ。
	蝸と描かれない題材	15.0	●雨が降って蝸が出て来た。
⑦	蜂と蜂の巣	55.0	●蜂が巣にもどって来た・巣で遊んでいる。
	蜂と木	15.0	●蜂が木の上のぼっている。
	蜂の巣と木	10.0	●木に蜂の巣がぶらさがっている。
	蜂と描かれない題材	50.0	●蜂が花のみつをとりに行く、とって来た。
	蜂の巣と描かれない題材	20.0	●蜂の巣の中にたまごがある。
⑧	蟻と虫	100	●蟻が虫をはこんでいる。
	蟻・虫と花	16.7	●蟻が虫をはこんでいるのをみている。
	蟻と描かれない題材	66.7	●蟻が家（穴の中）に帰る。

註 各%は相互関係の有るものに対する比率である。但し内容により度数は重複していることもある。

表Ⅵ(ロ) 相互関係数の平均

年令＼絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	③～⑧平均
5歳児	1.0	3.0	1.8	2.2	2.0	1.8	1.9
4歳児	0.3	1.7	0.7	1.9	1.3	1.4	1.2
3歳児	0.6	1.7	2.0	2.6	1.3	1.5	1.6
2歳児	0	0	0.5	0.5	0	0	0.2
全年令	0.5	1.8	1.2	2.1	1.3	1.4	1.4

表Ⅵ(ハ) 相互関係有無の比率

(%)

絵	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
相互関係 有	44.4	73.7	69.6	87.0	83.3	75.0
相互関係 無	55.6	26.3	30.4	13.0	16.7	25.0

(1) 子どもは提示された絵をみて，そこに描かれている題材相互間の言語表現だけではなく，描かれた題材と関連のある描かれていない題材と関連づけながら彼等の生活経験を土台に個性的な言語表現をする。

(2) 絵③においては，山を見ている鳩，友達をまっている鳩などと表情把握的な言語表現が44.4%で，55.6%は相互関係的把握はしていない。特に屋根の上に立っている一羽の鳩という相互関係把握がないのは，屋根の描き方ならびに色彩が大きく影響しているものと思われる。

(3) 絵④においては，鳩と雀と見たものが15.8%（19人中3人），鳥の親子の関係把握的言語表現をしたものが31.6%（19人中6人）となっている。これは描かれた鳥の大小，色彩，そしてその描き方にも相当大きな問題があるのではないか。

またこの絵では描かれた題材が鳩，雀，餌であり，子どものそれらに対する関係把握的言語表現の種類は7種類に及び，表Ⅵ(ロ)で明らかなように言語表現相互関係数の平均は1.8であるが，5才児にあっては3.0と他の年令，他の絵にみられない高率を示している。

(4) 絵⑤においては69.6%の子どもは関係把握的言語表現をし，そのうち93.8%の子どもが蝶が花にとまる，蜜を吸いに来たという関係把握をしている。

(5) 絵⑥においては87%の子どもが関係把握的言語表現をし，他の絵に見られない高い率を示している。そのうち90%の子どもが，蝸があじさいの上にのっている，花を見ているという関係把握をした。蛙と蝸との関係については，39.1%言語表現があり，蛙と蝸の関係では，55.6%の子どもは蛙と蝸が遊ぶ（話す等），44.4%は，はなればなれになる表現へと移行している。

(6) 絵⑦においては83.3%の子どもが関係把握的言語表現をし，そのうちの半数が蜂が蜜をとって来たという把握をし，蜜という描かれない題材との関係において蜂をみている。

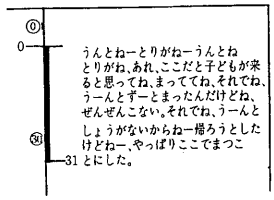
(7) 絵⑧においては75%の子どもが関係把握的言語表現をし，その全員が蟻と虫の関係で把握し，そのうち72.2%の子どもは，蟻が虫を食べるとみている。そして描かれていない蟻の穴，蟻の家という関係の表現が75%のうち66.7%を占めているということは，蟻といえば穴に巣を作るという蟻の生態が，子どもにとっては最も自然な発想であることを物語っている。

この絵においては画面の上部が花の絵になっている。子どもの言語表現からみると花は見ているが（54.2%）蟻との関係把握をする子どもはその23.1%にすぎない。

D　言語表現内容の分析

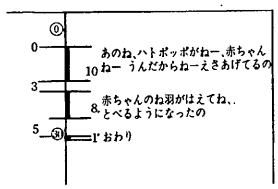
絵③～⑧のそれぞれの言語表現から一例をあげその内容分析についての考察

絵③　5才児W・K♂



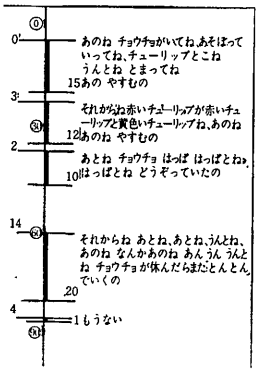
この子どもの言語表現の中には時間的経過そして心情的には「子どもが来ると思って」「しょうがないから帰ろうとした」けれども「やっぱりここで待つことにした」という意図的・意志的な言語表現が見事にあらわれており，子どものパーソナリティやその生活的態度が反映されている。

絵④　4才児K・M♀



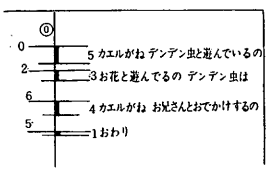
この女児は，雀を鳩の赤ちゃんだと知覚し，生れたばかりの赤ちゃんに親鳩が餌を与え，その赤ちゃんに羽がはえてとべる様になったといいながら，鳩の赤ちゃん，いや雀かも知れないという疑問は一切さしはさまず，極めて自然率直な言語表現となっている。

絵⑤　3才児Ｉ・Ｎ♀



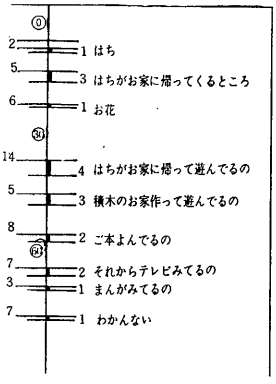
この子どもは遊んでいた蝶がチューリップにとまって休もうとし，蝶とチューリップの色彩に目をとめると赤い蝶というところを赤いチューリップといいまちがえながら赤い蝶は赤と黄色のチューリップにとまってやすみ，白い蝶にまで言語表現が及ぼす。チューリップの葉に視線をむけて葉がどうぞ休んで下さいといって，蝶は休んでとんでいったという，チューリップと蝶の相互関係と動きの時間的経過を表現している。

絵⑥　4才児Ａ・Ｒ♀



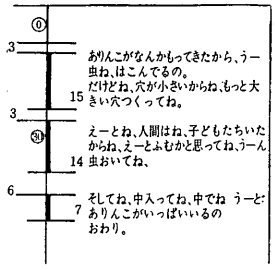
絵全体の知覚の中からこの絵は蛙と蝸が遊んでいるととらえ，さらに全体を部分的に分解し，蝸はお花と遊んでいると修正しながらよく蛙を見ると，大きい蛙と小さい蛙だ。大きい蛙はお兄さんだと説明し，２人ででかけようとしているとむすんでいる。

絵⑦　4才児Ｉ・Ｒ♂



蜂が家に帰つてくるところといい，蜂の巣という言葉が出ないまま言語表現が進み，家に帰って積木をするという生活経験がでてくる。本を読む，テレビを見る，マンガを見るという言葉が一人歩きをし，絵の知覚から離れて行く姿がくっきりとでている。

絵⑧　5才児Ｙ・Ｋ♂



蟻が運んでいるのはなんだろう，それは虫だ。この虫をひきずり入れる穴，そんなものはこの絵にはないが，この子はその穴が小さいからもっと大きい穴をつくってといいながら，ひょっとしたら人間，子ども達が来て（いたからね）ふむと思ったから，その虫をおいて（にげ）穴の中にみな入ってしまったという個性的，想像的世界の言語表現を試みている。

以上はそれぞれの絵における特徴的な一例であるが，全体を整理すると次のようにまとめることができる。

〔1〕 心情的にとらえている。
〔2〕 表面的にとらえている（知識はかなりある）が形の部分的なものに気がつく。
〔3〕 全体をとらえているが，自分の生活とまざり合っている。
〔4〕 全体をとらえているが自分の見たこと，聞いたこと，経験したことのイメージにそくして発展する。
〔5〕 部分を順に言い，全体をとらえる。
〔6〕 部分の特に物の動きや色彩をとらえる。
〔7〕 絵を見て特に過去における印象深かった経験を思い出し，その話をし，話し終って絵の一部に気づきそれについて話す。
〔8〕 命名のみをするか，絵の中の物の動きの一部を断片的にいう。
〔9〕 興味をもって見るが，言葉にならない。
〔10〕 詩情豊かに話す。

Ⅳ　まとめ

幼児に絵を見せ，その絵について話をさせるとどんなことを，どんな状況で言語表現するだろうか。

３才児は最もおしゃべりで「うんとね」等のつなぎのことばを頻繁に使用し，言語表現内容

数も最も多い時期であることが確められた。

言語表現がどんな言葉から始められるかに関しては，2・3・4才児では描かれたものから離れて，自己の生活経験を話す子どもも見られるが，5才児になると，描かれた題材の呼称から始まっても，すぐ絵の全体把握をし，題材の状態を動的につかみ想像的に言語表現し，絵から離れて自己の生活経験を話す子どもは少なくなる。幼児は年令が進むにつれて，絵に描かれた題材といつも関連をもちながら，描かれていない仮空の表象像と結びつけて，言語表現を展開する様子がはっきりと見られ，このことは年令が進むにつれて表象力が旺盛になることを裏書きしている。

6枚の絵，それぞれに描かれた題材の数，大小，むき，色彩そして形，それらから発展して描かれない表象像とむすびつけながら，子どもの相互関連的把握，それにもとずく言語表現をさぐって見ると実に興味のある結果が示されている。子どもの言語表現から逆に絵の描き方に対する問題を発見することもできるし，子どもの生活経験の豊かさ，とりわけ教育における豊かな経験の中で培かわれたものが，随所に顔をのぞかせていることがわかり，個性的な子どもとそうでない子どもとの違いもはっきり見られる。

言語表現内容等に関しては主語，述語そして品詞別分類などから内容分析をする方法もあるが，そのような方法はとらなかった。

表現内容の展開に関しては，もっと時間的なものと関連させながらその展開を詳細に分析すれば，子どもの言語表現から絵の知覚における子どもの視線の動きなども，ある程度客観的につかまえることができるのではないかという確信を得たが，ストップウォッチで行ったので，このたびはそのような分析は割愛せざるを得なかった。

本研究では，被験児が少数ではあったが，幼児の絵の知覚と言語表現に関し，年令的特徴の傾向を種々の視点から明らかにできたのではないかと思っている。